

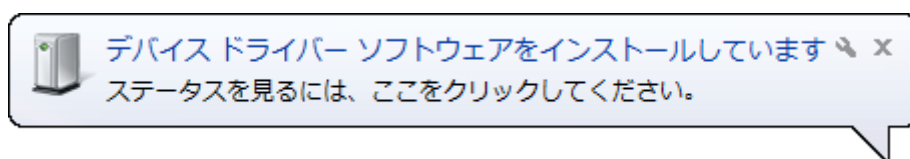
[動作環境]

- ・OS : Windows 8, 7, Vista (SP 2 以降), XP (SP 3 以降)
- ・解像度 : 横 1,024 × 縦 768 以上
- ・必要なソフトウェア : Microsoft .NET Framework 2.0

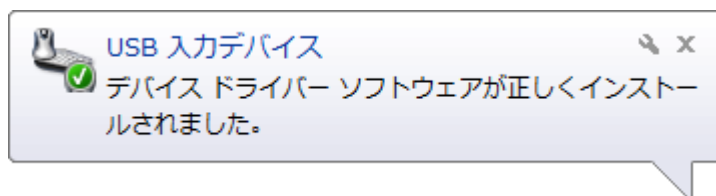
[接続方法]

・A:miniB タイプの USB ケーブルを用いて、パソコンとニキシー管キットのコントロールユニットを接続します。

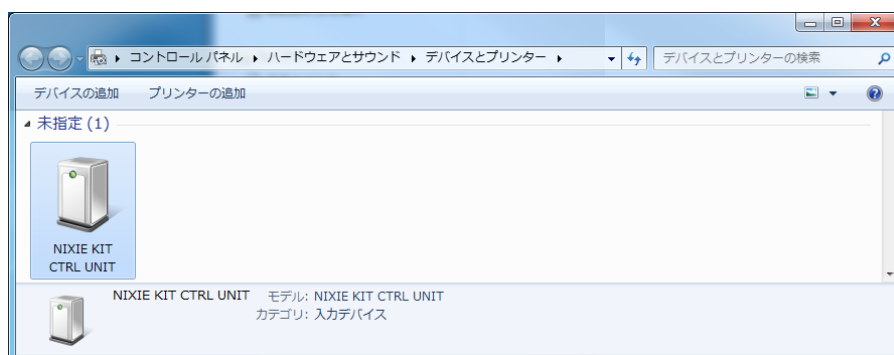
接続すると、パソコンが自動的にデバイスドライバーのインストールを開始します。



・インストールが完了するまでしばらく待ちます。

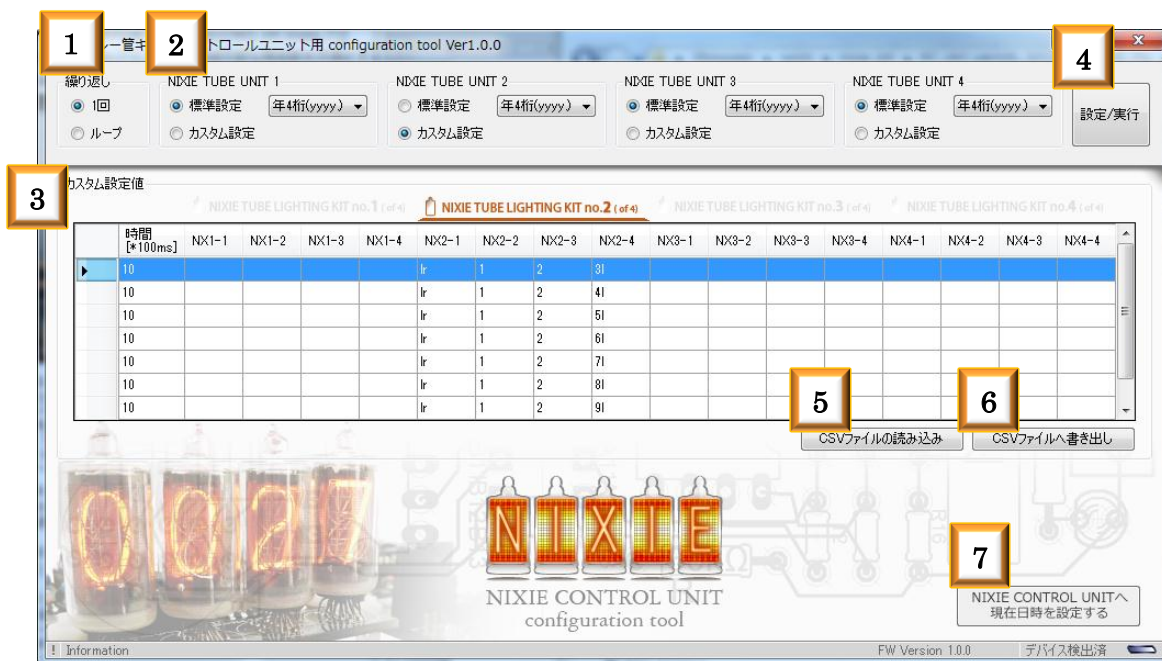


・接続が完了するとニキシー管キット コントロールユニットは入力デバイスとして認識されます。
[コントロールパネル] - [デバイスとプリンター]を表示して、下記のように表示されていれば正常です。



[コントロールユニット Configuration Tool]

・このツールで、ニキシー管に表示するデータを設定します。



1 [繰り返しの選択]

・カスタム設定時に、設定データを1回のみ送信するか、繰り返し送信するかを選択します。

2 [標準設定/カスタム設定]の選択

・標準設定の RTC 日時を表示するか、カスタム設定の任意のデータを表示するかを選択します。

標準設定値	表示内容	表示例 2013/4/26 13:15:30 の場合
年 4 桁(yyyy.)	西暦 4 桁と 1 桁目の右ドットを表示	"2" "0" "1" "3."
月日(MM.dd.)	月日と各 1 桁目の右ドットを表示	"0" "4." "2" "6."
時分(HH.mm)	時分と時の 1 桁目の右ドットを表示	"1" "3." "1" "5."
時分(HH.m)	時と分の十の位と、右から 2 番目の管の右ドットを表示	"1" "3" "." "1."
分秒(m.ss)	分の一の位と秒と、左から 2 番目の管の右ドットを表示	"5" "." "3" "0"

3 [カスタム設定値]の設定

- ・ニキシー管に表示する任意のデータを設定します。
- ・左端の時間列には、表示時間を 100[ms]単位で入力します。1000ms の間表示しておきたい場合は、10 と入力します。
- ・各セルには表示したいデータを設定します。

値	表示内容
0 - 9	設定した数字を点灯
r	右ドットを点灯
R	右ドットを点滅
l (小文字のエル)	左ドットを点灯
L	左ドットを点滅
f, F	フェード表示 表示していた数字をフェードアウトし、設定した数字をフェードインで点灯表示します
b, B	数字を点滅
なし	何も表示しません

例 “7rb” と設定した場合は、数字の 7 が点滅し右ドットが点灯します。

4 [設定/実行]ボタン

- ・ボタンをクリックすると、設定内容をコントロールユニットへ送信します。
- ・送信中は、ボタンの表示が“停止”となり、“停止”ボタンをクリックすると、データ送信を中止します。

5 [CSV ファイルの読み込み]ボタン

- ・カスタム設定値が保存された CSV ファイル形式のファイルを読み込みます。

6 [CSV ファイルへ書き出し]ボタン

- ・カスタム設定値を CSV ファイル形式で保存します。

7 [NIXIE CONTROL UNIT へ現在日時を設定する]ボタン

- ・コントロールユニットのリアルタイムクロックの日時を、パソコンの日時に設定します。